

ついて

ア 社会科学学習指導と道徳の時間の指導との関係をどのようにしたらよいか。

イ 郷土の取扱いをどのようにしたらよいか。

ウ 地理的教材と歴史的教材の取扱いをどのようにしたらよいか。

④ 低学年分科会（研究主題研前記ア）

・司会者 古殿町立鎌田小学校教頭 萩原健次氏

・助言者 東白川出張所指導主事 山野辺幸一氏

ア 研究発表「社会科における低学年の指導過程の考え方、そのとりくみ方と指導の現実について」

(ア) 発表者 玉川村立須釜小学校教諭 宇佐見俊夫氏

(イ) 発表要項

低学年社会科学学習内容の特性、低学年児童の問題意識や関心のとらえ方、低学年の地図指導の系統について、楽しい学習活動を促す指導方法について

(ウ) 研究協議内容

社会科と道徳の指導は相互に密接な関連があるが、それぞれの特質がある。まずこの点をはっきりすることが必要であること、またこのための指導計画のたて方等について話し合った。

⑤ 中学年分科会（研究主題は前記イ）

・司会者 古殿町立竹貫中学校教頭 南条知一氏

・助言者 石川出張所指導主事 添田信一氏  
同 菊池 玄氏

ア 研究発表「中学年における社会科学学習指導法一郷土の取り扱い一について」

(ア) 発表者 浅川町立浅川小学校教諭 松本幸也氏

(イ) 発表要項

郷土の学習において現場で予想される共通の問題点、学習をするにあたっての留意点、地図・年表利用上の留意点、郷土読本などの活用について

(ウ) 研究協議内容

郷土学習の展開にあたっては、教科の指導目標にてらして、内容をよく吟味検討し、重点的にとりあげなければならないこと、郷土学習の範囲としては、3年では村や町中心、4年では県にひろげ、これを基礎として特色のある他の地方と比較して学習すること、資料は、学習展開過程において、何を、どのように提示し、何を思考させ、何のねらいを達成させるかを、はっきりして活用することなどについて話し合った。

⑥ 高学年分科会（研究主題は前記ウ）

・司会者 古殿町立宮本中学校教頭 由井四郎氏

・助言者 西白河出張所指導主事 遊佐竜夫氏  
石川出張所指導主事 菊地 滋氏

ア 研究発表「学習効果を高めるための指導過程をどうするかー日本の工業の指導ー」

(ア) 発表者 石川町立石川小学校教諭 武田 芳氏

(イ) 発表要項

導入のしかた、視聴覚教材の活用について、単元指導の具体例について

(ウ) 研究協議内容

視聴覚教材は直接経験のできない内容について、学習過程の中で、どこで、何のために、何をとりあげるかという、意図的・計画的・効果的な活用が必要であること、各種の統計資料については、新しい資料が提示できるよう常に資料の累積収集が必要であることなどについて話し合った。

(2) 浜通り方部

① 期日 昭和38年10月25日（金）

② 会場 相馬郡飯館村立草野小・中学校

③ 研究主題「地域に即した学習指導をどのように進めるか」

④ 研究発表

ア 「学習指導法についての一考察」

相馬郡飯館村立飯館中学校教頭 大原一男氏

イ 「学習指導法の改善」

石城郡田人小荷路夫分校教諭 大友和衛氏

双葉郡大堀小三程分校教諭 吉田喜代松氏

相馬郡飯館村飯館小比曾分校教諭 片寄利男氏

⑤ 分科会における討議内容

家庭学習の在り方、授業における補助教材の扱い方のくふう、授業の充実について、生活指導の重要性などについて話し合った。

⑥ 講演「へき地学校における児童生徒の学力向上について」 県教育委員会指導主事 星 久好氏

(3) 会津方部

① 期日 昭和38年11月8日（金）

② 会場 喜多方市立熊倉小学校雄国分校

③ 研究主題「効果的な学習指導をするにはどうしたらよいか」

ア 複式学級における社会科の学習指導計画および指導法はどうしたらよいか

イ 同上理科の学習指導計画および指導法

ウ 分校や小規模学校の効果的な経営はどうしたらよいか

④ 第1分科会

・司会者 尾野本小学校教頭 武藤雄一郎

・助言者 北会津出張所指導主事 山内兵衛氏  
耶麻出張所指導主事 武藤義男氏

ア 研究発表

(ア) 複式社会科（低）において効果的な指導をするための一考察 柳津小教諭 宮内陸照氏

(イ) 複式学級における低学年社会科学学習指導計画例ならびに指導法 旭田小教諭 佐藤きぬ氏

(ウ) 同上主題 尾野本小教諭 小島正子